

## 平成 30 年度 第 2 回新城市地域公共交通会議 会議録

### 1 開催日時

平成 30 年 10 月 22 日（月）午後 2 時 10 分から午後 3 時 50 分まで

### 2 開催場所

新城市役所 4 階 4-2・4-3 会議室

### 3 委員（19 名中 18 名出席）

所 属 等	氏 名	備 考
新城市長	穂積 亮次	会長
名古屋大学大学院環境学研究科 付属持続的共発展教育研究センター教授	加藤 博和	副会長
公益社団法人愛知県バス協会専務理事	古田 寛	
豊鉄バス株式会社取締役営業企画部長	長縄 規之	
豊鉄タクシー株式会社取締役社長	浅野 丈夫	
新城交通有限会社代表取締役会長	大橋 京子	
豊橋鉄道労働組合中央執行委員長	長坂 和俊	
新城市社会福祉協議会長	前澤このみ	
新城市老人クラブ連合会長	加藤 実	
千郷小学校 P T A 副会長	池上 央子	
バス利用者代表	加藤久美子	座長
バス利用者代表	筒井 博仁	
バス利用者代表	村田 藤子	欠席
中部運輸局愛知運輸支局 首席運輸企画専門官	杉本 忠久	
愛知県振興部交通対策課主幹	榊原 仁	
愛知県新城警察署交通課長	伊藤 由介	
愛知県新城設楽建設事務所維持管理課長	柴田 知之	
新城市総務部長	古田 孝志	
新城市健康福祉部長	滝川 昭彦	

### 4 会議次第

#### 1 あいさつ

#### 2 報告事項

- (1) 新城名古屋藤が丘線高速乗合バス「山の湊号」について
- (2) 田口新城線活性化検討会の協議状況及び利用促進策について
- (3) 平成 30 年度夏休み小学生 50 円バス利用状況について
- (4) 台風 24 号での崩落に伴う長篠山吉田線の運行状況について

#### 3 協議事項

- (1) 作手地区及び鳳来南部地区路線の進捗状況について

#### 4 意見交換

#### 5 その他

## 5 議事の結果

### 1 あいさつ（会長）

今日は、大変お忙しい中にもかかわらず、第2回目となります地域公共交通会議のご案内いたしましたところ、皆様それぞれのお立場からご参加いただきありがとうございます。また、日頃は新城市の地域公共交通のことにつきまして、様々なご指導、ご支援を賜っていることにもこの場をお借りしまして感謝申し上げます。

今年は、ことのほか災害の多い年でございましたけれども、特に本日の報告事項にも入っております先の台風24号であります。皆さんの倒木被害と併せて、停電被害等がございました。地域の足にも大きな影響が出ましたけれども、これについてはまた、皆様からご協議をいただければと思います。また現在、新城市では9月定例会があけた後、10月いっぱいをかけまして10の地域自治区ごとに地域意見交換会を開催しております。市長と3役、部長が会議に出席しまして地域の皆さんの様々な課題について意見交換をする場でございますが、まだ全地区終わっていない、始まったばかりであります。すでにその場でも地域の公共交通の在り方について、様々な熱心なご意見をいただいております。作手及び鳳来南部でデマンド交通などのモデル事業を行っておりますが、それらも今日、課題に挙げていただきまして、これからの地域の公共交通の在り方について、さらに幅広いご検討を願えれば幸いです。

限られた時間ではございますけれども、皆さんの活発なご議論を通じて、この地域がより暮らしやすい、また住み続けられるまちであるように努力をしてみたいと思いますので、よろしく願いいたします。

### あいさつ（副会長）

昨日の朝、私は北上というところで起きまして、その前は北海道に行っていたんですけれども、北海道からわざわざ北上まで行ったのは、どうしてかという、北上は都心部のところは駅と中心部が1kmくらい離れているのですが、そこをすべてのバスが循環をしてから郊外に行くということで、都心部の色々なところから郊外に行けるようにするというのをやって、郊外へ行くとは前は細かい路線があったのですが、そのところに各地域でNPOや自治会等がいわゆる公共交通空白地有償運送をやるということを進めているところで、とても参考になると見てきたということです。

という感じで全国に色々な取り組みがあって、私も色々なところを見に行ってみて、ちょうど後でもし必要があればお渡ししますけれども、今度の土日に、暮らしの足をみんなで考える全国フォーラム、毎年この時期にやっているものですが、今度の土日にいきなり東京へ来てというのなかなかあれですけれども、1日だけとかでも構わないので、去年も400人近く集まりまして、非常にたくさんの方が興味を持って出てこられるものなんです。新城は私ももう10年以上お世話になって、色々なことをやらせていただいておりますが、今日も色々な報告や協議がありますが、常に地域の状況をよく見て、その上でできることをきちんとやる。それから、やったことはきちんと確認して悪いところは直して前に進むということをやりたいなと、昨日、北上を見ながら改めて思った次第です。今日もみなさんと一緒に考えてやれればと思いますのでよろしくお願いします。

## 2 報告事項

### (1) 新城名古屋藤が丘線高速乗合バス「山の湊号」について

・事務局より、報告資料1及び追加資料（アンテナショップ開設について）に基づき説明を行った。

委員：説明のとおり、山の湊号については、新城発の2、3便と長久手発の1、2便の利用促進というところはキーになってくる。ビジネスの需要を掘り起こす手立て、企業さんへご紹介、ご案内いただいて需要を上げていくということも必要なのかなと改めて思ったところである。アンケートの中でバスの運行方法について、鳳来地区へということで13人ほどあったかと思うが、逆にどうやって乗り継いで行けるのか、利便性を考えるというところになってくる。先ほど、土日の1便の時間の関係、確かにアンケートのとおりだと、そのところは事業者さんとの調整ということになってこようとは思いますが、利用促進のために変更が可能になってくるのであれば検討が必要になってくる。

委員：追加資料のアンテナショップの営業時間が午前10時から午後6時とあるが、藤が丘を出発するのが9時ということで、切符を売る時間帯についての交渉の状況をうかがう。

事務局：藤が丘中央商店街振興組合については、営業時間に合わせて一緒にやっただけというところであり、それと併せて周りのお店などで販売してくれるところを探している。また、先日長久手市役所でもお願いしてきたところで、長久手古戦場駅の近辺でも販売できる場所がないか、打診をしている。

委員：今後の活性化にもつながるので、引き続きやっていただきたい。例えば、コンビニで置いてもらうとか、そういうところも打診してほしい。

副会長：名古屋でアピールすることを考えたとき、新城には色々なものがあるが、それを見に行こうとするとこのバスに乗ると便利だよということをPRしていかないといけない。先ほどビジネスの話も出たが、例えば10時30分からの会議は10時29分着のバスでは無理であるので、そういうことを考えて会議をセットしなければいけない。名古屋から新城に来るとしたら、どういうところに行くのかということに対し、このダイヤでどのように行けるのかという色々な組み合わせを考えて、それを見せていくということは今までもやっていたかもしれないが、しっかりと行う。ダイヤが3便なので、特に名古屋の人たちが新城へ行くときに、具体的な提示をしてバスに乗って行きたくなるという気持ちになってもらう。併せて、どうやってインターネット検索にかかりやすくするか、「るるぶ」など旅行関係の雑誌でPRできないのか、そういうことをやっているのか確認しておきたい。それと、アンケートの中に新城の方で今の停留所だけでよいのかというのが出ていた。停留所を増やすと、どうしても時間もかかるということだが、とりあえずは今のままで行くのかということも確認しておきたい。具体的に言うと、例えば県の事務所に行こうとすると、今の便だと良い停留所がないのではないか、そういうことを考えるが、その意味ではあと1、2か所くらい増やしてもよいのかなと考えているが、もし意見があれば伺いたい。

事務局：今回のアンケートを行うにあたり、運行方法の項目に鳳来地区を回るなどの選択肢を入れてみたが、それを皮切りに意見が出てこないかなということでやっている。現在のところ、大宮方面を回ってほしいという意見が出ているので、今後もそのような意見が出てくると思っている。そういう意見を踏まえて平成32年度以降のことを目指したいと思うが、様々な検討をしていきたい。

(2) 田口新城線活性化検討会の協議状況及び利用促進策について、

交通対策課：報告資料2に基づき説明。(田口新城線活性化検討会について)

・事務局より、報告資料2に基づき説明を行った。

委員：企画ツアーの登山旅という名称について、モデルコースを見ると11時8分に鳳来寺バス停に到着して、午後2時前にはバスに乗って帰るということで、とても登山ができるような行程ではないと思う。以前に鳳来寺山に登った方が数名、上の方で足を怪我して救助活動を何件かしたことがあり、こういう行程で鳳来寺山に登れるというチラシを作成されると、これを真に受けた方が上まで行ってしまうようなことも考えられるので、もう少しきちんと案内を書いた方が良い。

事務局：実際のチラシでは、ポイントごとに何分かかるということを掲載する予定である。また、時刻表についても、モデルコースのほかに全ての時刻を掲載する予定であり、安全面についても考慮したものにしていきたいと考えている。

座長：これは、当日限り有効の切符か。

事務局：有効期限については、豊鉄バスさんと調整させていただき、当日及びその翌日という2日間を設定している。モデルコースは日帰りの行程としており、おすすめは1日のコースということになる。

副会長：先ほどの時間設定については、15時35分の鳳来寺発に乗れば間に合うので、それでよいのではないかと思う。これは鳳来寺まで行くという設定で考えられているが、例えば、鳳来寺を乗り越した場合どうするのかなど思った。これは鳳来寺からの運賃を別途取るという考え方か。私が考えていたのは、四谷千枚田へ行けないかということであるが、その場合、帰りは四谷千枚田口14時25分があるので、行くのは同じ川路10時34分に乗って、滝上まで行って、歩いて、14時25分に乗る。日曜日はこの便はないけれども、平日であれば十分楽しめるかなと。そう考えたときに、この切符では逆に鳳来寺で降りてしまう人が多くなり、それより先にまで乗ってもらえないというインセンティブになってしまう可能性があると思っているので、例えば鳳来寺から海老までをフリー区間にした方が良いのかなと思いつつ案を見ていた。もう少し高くしても良いのかもしれない。それから、ある人が言っていたが、田口新城線という名前について、はこれで良いのかどうか。田口というのを名古屋の人に言ってもわかるのかということも考えた。設楽新城線にした方が良いのではないかな。もちろん田口鉄道があったので田口新城線であるが、広域で観光客を呼び込もうということも考えた場合、田口新城線という言い方で良いのかどうか。今年田口鉄道が廃線になって50年であるが、これで終わりということにもなるので、名称を考え直す必要があるのかなと思っていた。それから、モニターツアーについては座談会をやるということだが、これはやるということか。

事務局：すでに地元とも調整をしており、実施に向けて進めている。

副会長：日程の中にデザートが食べれるとか、ゲームをやるとか、そういうのがないと。座談会やって、市役所を見て、何か食べて帰るというだけではね。つまり、このモニターツアーというのは、ここで時間をこうやって使えるということがわかることが大事。これこそ、地域の皆さんにモニターツアーをやるとしたら何が出来るのかということも聴いてみると良い。海老地区の人たちが1回バスに乗ってみたいというのならこれでも良いが、そういうわけではないと思うので、何かお楽しみがないといけないと思う。

事務局：もとの日程では3時間くらいを市街地で過ごすという予定でいたが、地域の方から3時間もどう過ごしてよいかわからないということで、このプランであるが、引き続きプランを考えて実施していきたい。

副会長：私自身、乗って楽しい、降りても楽しいといつも言っているわけで、公共交通は乗ること自体が楽しいだけではなくて、当然降りた先が楽しいところでなければ乗らない。田口新城線が乗れるということがわかって、その行き先のところで面白いことがなければ。こういう機会に来てもらうということも一緒に考えてもらわないと、やっぱりうまくいかない。まさに、考えてもらうチャンスだと思う。とりあえずやってみようというのは良いが、そのときでも時間をもてあますということであればもったいないので、何か考えてもらえると良い。改めて、田口新城線の沿線に観光資源や行って楽しいところは何があるか、そういうマップのようなものは考えないのか。観光協会などで色々なものを出していると思うが、それは完全に車で行くためにつくったもので、バスでは行けないところもある。バスで行けて、次のバスまでに行ってこられるというようなものを紹介していけるものがあると良いなど思っている。これは沿線全部で、みんなで考えてやらないとなかなかできないと思っているが、商工会や観光協会と一緒に、地域の皆さんとやる、田口新城線魅力化プロジェクトのようなものができないかなと思っているが、どうか。

事務局：私は、前の所属が観光課で、私も少し考えていた。まだ具体的なイメージがわいているわけではないが、奥三河観光協議会という団体があり、相談をしながら奥三河全体でどういうことができるかということはやっていききたいということをや投げかけていきたい。

座長：12月1日の市民まちづくり集会では、マップを作ろうというようなテーマで実施されるようなので、そういうところに参加して市民の方に色々な情報を出してもらうのも一つの手かなと思う。

### (3) 平成30年度夏休み小学生50円バス利用状況について

・事務局より、報告資料3に基づき説明を行った。

委員：実績の数値が違っているのではないか。

事務局：1日平均の計算が間違えていた。豊橋営業所が269.9、新城営業所が29.9、渥美営業所が9.9となる。

副会長：毎年、この数値を見るが、結局のところ良かったのか、悪かったのか。去年に比べて良かった、悪かったとは言えても、去年が絶対値として良かったのか、ここが不明確だなと思っていて、そういうことを考えないといけないのではないか。この事業でそれほど減収になるわけでもないし、毎年やっているから実施するとなってしまう。例えば、作手線を親子で乗って、つくで手作り村まで行って帰ってくるという企画を夏休みの1日くらいやってみてはどうか。新城の場合は、もう少し絞って、今年はここへというような。先日、青森で東栄町の花祭りのポスターがそこら中に貼ってあった。ディスティネーションキャンペーンだからかもしれないが、青森の人と話していたら、行ってみたいということだった。ポスターを見た人が実際にどれだけ行ってくれるかはわかりませんが、東京であれば行く人がいるかもしれない。そういう魅力があるなど。東栄町だけではなく、愛知県全部をどのようにアピールするかというためにやっているわけだが、特にここはどうか、というものをきちんとアピールするという方法もある。このデータを見ていて、北部線、西部線ではどうだろうと考えてみて、今

年はここを宣伝していこうというようなことをやってみてはどうかと思う。おそらく、来年も再来年も実施すると思うが、新城だけでもそういうことをやってみてはどうか。1か所だけでなく、2、3か所出しても良いと思うし、前にも言ったが6月の会議では、すでにチラシなどができてしまっていて新しいものが作れないが、PRするのは夏休みの50円バスだけでなく、日頃からでもよい。

委員：「ローカル鉄道聞き込み発見旅」という番組がある。聞き込みをして10の名所を見つけていくという番組だが、最初は地元の人もこんなところに名所なんてないと言うが、聞き込みを続けていくと、実はこういうところがあると。普段は、地元の人が見ても何ら名所にはならないが、他の人からは非常に良い名所、旧跡と思える。例えば、この会議の委員のなかでこのバス停の近くにこういうものがあると、みんなで持ち込んで作るということでもよい。ああいう番組をマネするわけではないが、自分たちで作らしていき、そういうことが大事なのかなと感じた。

(4) 台風24号での崩落に伴う長篠山吉田線の運行状況について

・事務局より、報告資料4に基づき説明を行った。

委員からの意見なし。

### 3 協議事項

(1) 作手地区及び鳳来南部地区路線の進捗状況について

・事務局より、協議資料1に基づき説明を行い、各地区の状況について協議を行った。

副会長：作手地区の資料を見て思ったのは、今こういう人が乗っているというのは良いが、こういうものができれば、こういう人が乗るかもしれないというのがほとんど見受けられない。それは、デマンド交通をやるときに一番良くないパターンで、自由になったらたくさん乗るかと言えば、むしろ自由になった方が乗らない。決まった時間に走っているから乗るという人は、それがなくなるとバスに乗るという生活リズムがなくなり、代わりに自由に動きたい人が乗るかと思えば、自由に動きたい人は、多くの人が車を持っている。自由に動けない人が自由に動けるとなったときに、一体どこへ行くのかということきちんと見ておかないと、なかなか難しい。この資料は、それが見て取れないというのがちょっと不安である。その意味では、これができたらどこへ行くのかというのを机上シミュレーションでよいので、やってみた方がよい。現状では支所周辺しか行かないかもしれないが、それはあくまでも現状である。それから前日予約という事例は、ほとんどうまくいっていない。当日の移動は、当日に考える方が多い。朝の早い便は、前日でなえれないけれども、9時以降の便は、当日の方がよい。人を張り付けておくのであれば、当日でも不可能ではないと思う。この10月から岐阜県白川町では、路線バスを朝夕の通学便と昼間はデマンドにした。作手地区の場合と似たようなしくみに変更したが、昼間の便は1時間前まで予約できる。朝の便はJRが通学用に1本しかないで、それに合わせて走り、夕方は高校生の方が、6時台発、7時台発、8時台発のどれかをスマホアプリで選択して予約するという仕組みにした。これは12時までに予約する。昼頃に今日は何時に帰るということを決めて、JRに合わせて迎えに来てくれて走るという仕組みにした。それは、結局何を考えているかということ、対象となる人がどうい

う動きをしたいかというところからきている。そういうことを、これからもう少し詰めて、考えられた方がよい。体制の問題もあるが、白川町の場合は運転手不足のため、半分の方は地域のボランティアの方でやっただけでいる。鳳来南部はまだ具体的ではないが、気になっているのは、今は浜松に行く人はほとんどいないということだが、2019年9月末で渋川までのバスを廃止するようである。伊平までということで、本来、潜在的には浜松の方に行く人もいるのかということの確認も必要である。これは山吉田地区の人だけでなく鳳来全体の話なのかもしれない。昔みたいに遠鉄バスがずっと走っていないので、浜松に行く方法はバスマニアぐらいしか知らないということになっているが、需要があるのであれば、例えばデマンドになるのだとしたら、デマンドで伊平まで行けば三方原病院まで行く人がいるのかどうか。先ほどの話と同じで、今は行く人がいないので意味がないというのではなく、本来行きたい人が多いのに、今のバスではダイヤもわからないし、行けるとも思っていないので行かないだけなのかもしれないので、そこもよく考えた方がよいということであるが、2019年9月で渋川線が区間廃止になるということを念頭に置いて考えてほしい。あと1年後なのでご注意ください。

事務局：今の渋川線の話は、浜松市から連絡を受けている。早急に浜松市役所にお伺いして、交通対策課の方と現状の利用者などの情報交換も含めて、今後の動きを見据えて補正していきたいと考えている。

副会長：ちなみに代替バスが走ると思うが、伊平で乗り換えになる。それならば、伊平まで直接行った方がよいとか、或いは浜松市と色々交渉して代替バスが新城の方まで入って来られないとか、このタイミングで話ができるかもしれない。受け身にならずに積極的に相談していった方がよいかもしれない。新城の意向が向こうに伝わらないのはもったいないと思うし、一度決まってしまうとできなくなるので、ご注意ください。

#### 4 意見交換

委員：事務局からぜひご披露していただきたいと思ったが、新城地域公共交通会議の前座長さんの夏目さんについて、10月2日に表彰規定に基づき、感謝状を贈呈させていただいた。住民の方が公共交通会議の座長を長年務められるというのは非常に珍しく、本当にご苦労してこの新城市の地域公共交通をよくしていこうということで、ご努力をしていただいたので、感謝の意を込めて贈呈させていただいた。

#### 5 その他

- ・愛知県バス協会より、バス運転手募集チラシについて説明。
- ・愛知県より、エコモビリティライフ県民大会について説明。

事務局：第3回目の会議を1月に開催させていただく予定である。日程等を調整し、改めて通知するのでよろしくお願ひしたい。

<終了>